

女性協拡大 常任委員会

各地連からの
報告、勉強会
など



女性協議会

7月2日(土)、労連本部にて、全国各地連の女性協の代表者二一人が集まり、拡大常任委員会が開かれました。各地連の報告に続き、福島放送労組の高野可南子さんをスペシャルゲストとしてお招きし、原発事故と向き合い続ける福島の現状について話を伺いました。

♪♪♪
へ一五年前の問題がいまも……旧姓問題

各地連の報告では春夏間の報告のほかに、女性の組合員が少ないという声が目立ちました。女性の組合員が一人しかいない局や、約一〇年ぶりに女性社員が採



ゲストの高野可南子さん(中央)が福島の現状報告

用されたという局もありました。結婚後、旧姓の職場使用を会社が認めずに強制的に新姓に変えられてしまうと、この問題も報告されました。

●女性協
URL
<http://www.minpororen.jp/women/index.html>

た。「二五年前に上がった問題では」と驚きの声も上がる中、「組合として会社と問題提起する際には、他の放送局の事例を上げるのが良い」というアドバイスもありました。女性の数が少ない中、福島の現状報告を受けたい心境だといっています。「福島が汚染されている現状を受け入れざるを得ない。そこから逃げたいと言われない限り逃げられない中、少しでも自分の町が改善したというニュースをみんな聞きたがっている。福島のことを忘れないでほしい」という言葉が印象的でした。

ない中、こうした問題を一つずつ解決していくのは横のつながりは非常に大事です。

♪♪♪

原発事故以来、報道の現場にいる日本テレビ労組の蔭さんの話も伺いました。事故直後にメルトダウンの可能性があると専門家がオフフレコで指摘していましたが、政府や東電が発表していないことから、パニック状態を引き起こすのを恐れ、「危ない」と思いながらも、視聴者に伝えられないもどかしさを痛感しました。と、大きなジレンマを抱えながら取材していた生々しい現状を話してくれました。

意見交換の中では、東日本と西日本の原発についての認識の違いが話題に上がりました。九州の玄海原発再開のニュースが注目される中、「毎日放射能を気にする生活をしていたらそれは思わない」と高野さんは指摘。震災以降、一気に身近な問題となった原発問題。今後とも私たちの生活に関わる問題として私たち一人ひとりが考えていく必要性を強く感じました。